

「蜻蛉日記」

作者：藤原道綱母
 成立時期：平安前期
 ジャンル：日記

・「蜻蛉日記」

現存する日本最古の女流日記

・登場人物

- ① 藤原道綱母（作者）
 才色兼備（自信過剰）。兼家の浮気に心を砕き、道綱を溺愛する。
- ② 藤原兼家
 道綱の母と結ばれ道綱をもうけるが女好きで浮気を続ける。
- ③ 藤原道綱
 二人の子どもがいる。母から溺愛される。

☆作者の姪は菅原孝標女（すがわらのたかすえのみすめ）→更級日記の作者

・あらすじ

作者である藤原道綱母は才色兼備（この時代での才能はおもに和歌）でいろいろな男性から求愛されていた。

そんな中で熱烈に言い寄ってきた藤原兼家からの求婚を受けて幸せな新婚生活を送るはずだった…。が、兼家はかなりの浮気性でいろんな女の人の家に行くばかりで彼女のところへはほとんど来ない。

（※当時は通い婚と言って貴族の男性は妻と同じ屋敷には住まない。妻が複数存在。女性は夫を毎日じっと待つだけという立場でした。）

そこで道綱母はやきもちを焼いたり、沈み込んだりする。

例えば、文章の中では「さびしい、つらい」と夫に自分の家に来てくれるように頼む手紙を書いて送るのですが、夫が来るとその気持ちは空回りしてつんとした態度をとってしまっ、結局、夫は自分のところへ帰ってくることが少なくなってしまう。そのあと夫から詫びの手紙が来てもそれを無視してしまう、というような複雑な恋愛を経た後の夫婦関係が描かれています。

作者の道綱母は自分が昔モテたという自信があり、プライドが高いこともあってなかなか素直な行動がとれない。

しかし、そんな二人にも子供ができる。それが藤原道綱。ただ夫が全然かまってくれないという不満を抱えて、彼女の愛はすべて自分の息子に行ってしまう。

（４）蜻蛉日記のミニポイント

一言で言えばこの日記は浮気的な夫への不平不満と息子への偏愛で成り立っている。入試テクニックで言えばネガティブな感情が向けられているのはほとんど夫である藤原兼家。主語や目的語を当てる問題ではこれを知っておくと便利。また関係図からも分かるがこの一家は有名人ばかり。（上図を参照）

作者の藤原道綱母だけでなく、更級日記を書いた菅原孝標女もぜひ覚える。

・まとめ

『蜻蛉日記』重要なポイント

1. 作者は藤原道綱母
2. ネガティブな感情はだいたい夫（藤原兼家）に対して
3. 有名人ぞろいで重要人物ばかり

